

第 12 回アジア地域応用地質学シンポジウム
 (The 12th Asian Regional Conference of IAEG) 開催概要

日本応用地質学会 国際委員会
 ※2019 年 1 月 10 日現在の情報でのまとめ

韓国でのアジアシンポジウムの開催は、2007 年にソウルで開催された第 6 回に続いて 12 年ぶりとなる 2 回目です。第 6 回 ARC は 200 人を超える参加者があり、日本からも 40 人以上が参加し多くの発表がありました。韓国応用地質学会の IAEG 活動はその後に停滞していましたが、2019 年が学会設立 30 周年ということもあって 2016 年あたりから再生し、IAEG 会員数も現在 125 名と活性化してきています。さらに、Kangwon 大学の Jang, Bo-An が 2019 年から IAEG のアジア地域副会長の一人となり、さらに勢い付いています。また、2024 年には釜山で第 37 回 IGC コングレスの開催が決まっています。

このような経過にあって第 12 回 ARC の準備には相当の力が入っていて、会場や巡検の内容については大いに期待できることから、日本応用地質学会の会員には積極的に参加をお願いしたいと思います。

<ARC-12 概要>

主催：韓国応用地質学会(KSEG), 後援 IAEG

開催日程：2019 年 9 月 23(月)～27 日(金)

9/23 (月)	9/24 (火)	9/25 (水)	9/26 (木)	9/27 (金)
プレ巡検	開会式 基調講演 技術セッション	基調講演 半日巡検 懇親会	基調講演 技術セッション 閉会式	巡検

開催場所：韓国、済州島(Jeju Island)

会場：Booyoung Jeju Hotel&Resort (チェジュ ブヨン ホテル&リゾート) 宿泊も可

案内ホームページ：<http://www.iaegarc12.org>



メインテーマ : Role of Engineering Geology for the Safe Society and Environment
(Topic)

1. Description and Behavior of Soils and Rocks

- Soil mechanics, Rock mechanics

2. Analysis and Prediction of Geo-hazards

2.1 Landslides and Debris flow

2.2 Earthquake and faulting

2.3 Land subsidence

3. Site Investigation, Ground Characteristics and Geophysical Exploration

4. Environmental Geology and Hydrogeology

5. Engineering Geology in Construction and Maintenance

- Foundations, Tunnels and Underground Space, Slopes, Dams, Earth Structures

6. Application of New Technology in Engineering Geology

- Remote Sensing, UAV, Terrestrial LiDAR etc.

アブストラクトは 12thARC ウェブサイトから提出。250 語以内の英語でテキストのみ。

<今後のスケジュール>

アブストラクト受付 : 2019 年 1 月 1 日 ~ 2019 年 4 月 30 日

アブストラクト査読結果 : 2019 年 5 月 31 日までにメールで通知

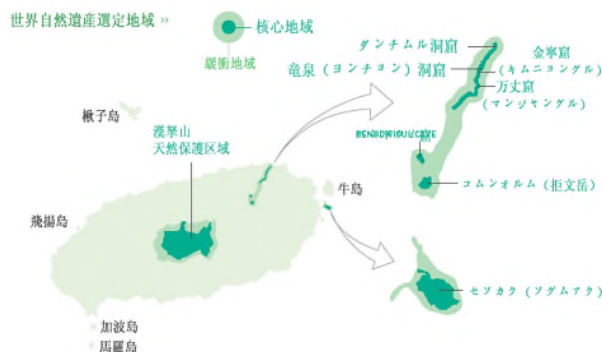
参加登録受付 (Earlybird) : 2019 年 6 月 ~ 2019 年 7 月 31 日

参加登録受付 (Standard) : 2019 年 8 月 1 日 ~

<参加料>

種類	Early Bird	Standard / Onsite
一般	¥ 500,000 / \$500	¥ 550,000 / \$550
付添	¥ 200,000 / \$200	¥ 250,000 / \$250
学生	¥ 150,000 / \$150	¥ 200,000 / \$200
スポンサー	¥ 500,000 / \$500	¥ 550,000 / \$550

<济州島について>



180 万年前から火山活動が始まり、島全体の 90 %以上が玄武岩で覆われた世界的な火山島。島の中心に位置する漢拏山（ハルラサン）は標高 1,950 m で韓国最高峰。島全体が、漢拏山山頂から周囲の全ての方向に流出した溶岩でできた巨大な楕状火山。2007 年に漢拏山天然保護区域、コモンオルム（拒文岳）溶岩洞窟系、城山日出峰の 3 地域がユネスコ世界遺産に登録。2010 年 10 月に济州島全域が世界ジオパークとして認定された。

成田空港からは約 2 時間 40 分、関西国際空港からは約 1 時間 40 分で到着できる。30 日以内の滞在かつ航空機や船が济州島に直接到着するものであれば、ビザなしで入国可能。

<代表的な名所>

<p>①漢拏山国立公園</p> <p>日帰りトレッキングも可能。ルートは複数あるが、立入制限の時間を守る必要がある。最も長いルート（観音寺コース）で片道 5 時間。</p>	
<p>②コモンオルム</p> <p>456 m の小火山。トレッキングコースや世界自然遺産博物館もある。入山には事前予約が必要。</p>	

③万丈窟（マンジャングル）

コムンオルムの溶岩流により、約30万年～10万年前に形成された世界最長の溶岩洞窟。全長13.4kmのうち、見学できるのは約1km。



④城山日出峰（ソンサンイルチュルボン）

10万年前に海底火山が噴火してできた峰。タフコーンの代表的な地形で日の出のオルム（済州の方言で側火山のこと）で知られている



⑤山房山（サンバンサン）

標高395m。済州島で最も大きい溶岩ドーム。



⑥龍頭海岸（ヨンモリヘアン）

竜が頭を下げて海に飛び込む様子に似ていることからその名がつけられた。山房山の尾根が海岸の侵食作用を受けてできた海岸。



⑦大浦海岸柱状節理帯（テポヘア
ンジュサンジョルリデ）

溶岩が海水によって冷却された柱状節理が見学できる。約 30～40m の柱状節理が海岸沿い 2 km に渡って続いている。



⑧天地淵瀑布（チョンジョンポッポ）

濟州島 3 大瀑布の 1 つでアクセスが容易。高さ 22m、幅 12m、滝壺の深さは 20m で、「天地淵」とは、「空と大地が出会ってできた池」という意味。



※番外編 ジオフード

ジオパークの地質的特性や文化をモチーフにして、地元食材を活用して作ったローカルフード。濟州島の様々な観光地に、ジオフードを提供するカフェやレストランがある。



山房山近くの「ウェンドゥグニ」が提供するジオフード
龍頭海岸の地層カステラ、ハモリ層火山弾クッキー、西帰浦層
貝の化石型マドレーヌ

各所の位置図



参考文献・HP

長谷中ら (1998) : 韓国, 済州島の単成火山の地形学的特徴、東北アジア研究、第 2 号

韓国観光公社 HP <http://japanese.visitkorea.or.kr/jpn/index.jsp>

済州観光公社 HP <http://www.jito.or.kr/japanese/>

韓国旅行「コネスト」HP https://www.konest.com/contents/area_top.html?id=3